・猿橋の渕と鮭の大助……字着沢と猿橋のとの間、成瀬川の両岸の岸壁が押し迫ったところに大昔は木橋、その後らんかん橋、吊り橋があった。現在は永久橋となっている。橋の北たもとに枝ぶりのいい老松が垂れ下り、橋下の渕にのぞんでおり、本村の名勝地であった。（現在は枯れている）昔、この渕に「鮭の大助」という主がいた。ある人が渕の主といわれる「鮭の大助」を釣ろうとし、工夫をこらしてやっと釣りあげたものの、手では持てないので、扉に乗せてかついだら、大助の尻尾は扉からはみ出したという。その大助が祟っていうには「俺を釣り上げたからには、ただではおかない、村中を不治の病いにしてやる、思い知れ」とすごまれた。

村人は恐れおののいて「水神として祀るからゆるしてくれ」とたのんで村中に小さいお堂を建立し、大助を釣りあげた大鈎をお堂の下に埋めたという。ここの集落に小さな祠があり「水神様」と呼び、正月の初詣には必ず立寄って参拝する。